

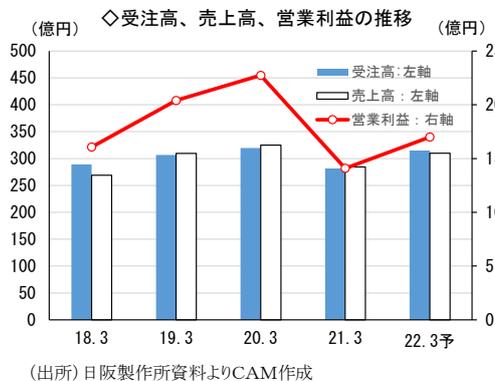
企業ニュース 日阪製作所

(東証1部：6247) <https://www.hisaka.co.jp/>

作成者：奥村義弘

プレート式熱交換器に強み

1942年、三石工業株式会社として発足。1951年に日阪製作所と改称。染色機械の開発・製造を開始した。1953年に日本初のプレート式熱交換器（流体の過熱・冷却を行う）を開発。以降さまざまな染色機、プレート式熱交換器など産業機械を手掛けてきた。現在ではプレート式熱交換器、レトルト調理殺菌装置、医療用滅菌装置、染色仕上機器、ボールバルブのメーカー。熱・エネルギーの効率化、食品・医薬品の安全性の向上、衣料品・産業資材の染色加工、多彩な流体制御などを実現している。21.3期の売上高構成比はプロセスエンジニアリング事業（殺菌装置、滅菌装置、染色装置など）46%、熱交換器事業40%、バルブ事業14%。



受注が回復傾向、環境技術の関連株としても存在感

22.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は、売上高が140億円、前年同期比1%増、営業利益が7億円、同19%減。受注高は173億円、同21%増。うちプロセスエンジニアリング事業が92億円、同28%増。栄養剤向け大口プラントや染色仕上機器の海外向け大口案件などが寄与した。熱交換器事業は61億円、同20%増。半導体向けや産業機械向け、船舶の新造案件が好調であった。プラントメンテナンス関連も受注した。バルブ事業は20億円、同1%増。鉄鋼向け大口案件、二次電池向けなどが好調に推移した。損益面では船舶向けや染色仕上機器の前期までの受注低迷、大型プラント案件の工期ずれ込み、バルブ事業での好採算案件の減少が響いた。

22.3期の通期会社計画は受注高が315億円、前期比12%増、売上高が310億円、同9%増、営業利益が17億円、同21%増。経済の回復を受けて需要が上向き、業績も回復している。23.3期までの中期経営計画「G-20」では、最終年度の23.3期に受注高350億円、売上高340億円、営業利益27.2億円などの目標を掲げる。同社の熱交換器は発電（火力発電、バイオマス発電）分野や船舶向けにCO₂の回収などにも使われ注目度は高い。使用分野は化学、食品、鉄鋼、造船など幅広い。また、食品ロスや安全性の向上に寄与する殺菌装置などのニーズも拡大している。

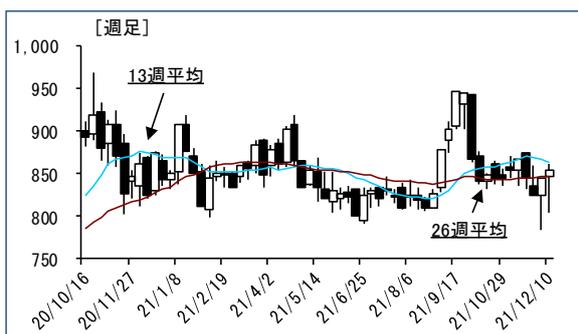
[株価動向・投資判断]

受注が回復傾向にあり、来期に向けて業績モメンタムの強まりにも期待できよう。

<6247 日阪製 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	32,511 (5)	2,274 (11)	2,573 (10)	2,080 (30)	73.4	20.00
21.3	28,437 (▲13)	1,409 (▲38)	1,765 (▲31)	1,212 (▲42)	43.1	30.00
22.3 予	31,000 (9)	1,700 (21)	1,900 (8)	1,320 (9)	47.0	30.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価 (2021/12/10)	854 円
年初来高値 (高値日)	946 円 (21/9/17)
同 安値 (安値日)	784 円 (21/11/30)
予想 P E R (22.3 予)	18.2 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,910.5 円
P B R	0.45 倍
予想配当利回り	3.51 %
(1株当たり配当金年30.00円)	
R O E (21.3)	2.3 %
発行済み株式数	3,273 万株